

大岡小学校 令和元年度 全国学力・学習状況調査 結果分析

国語

- 読むこと…必要な情報を得るために、文や文章全体を概観して効果的に読むことはできている。【正答率 86.7% (全国正答率 88.5%)】
 - 話すこと・聞くこと…インタビューの場面で、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をすることはできている。【正答率 83.7% (81.3%)】
 - 書くこと…相手に分かりやすく情報を伝えるための記述の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題がある。【正答率 63.3%、22.4% (63.4%、28.8%)】
 - 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項…漢字(同音異義語)を文の中で正しく使うことに課題がある。【正答率 26.5%、31.6% (41.9%、35.6%)】
- 指導の改善に向けて(国立教育政策研究所HPより抜粋)

【読むこと】

○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む指導の工夫

- ・調べる学習などで利用する機会の多い図鑑や事典を効果的に読むために、目次や索引等を活用することができるようにする。その際、目次や索引のそれぞれの特徴を理解し、それらを自分の目的や状況に応じて活用していくことができるようにする。

【話すこと・聞くこと】

○必要な情報を得るために、目的に応じた質問をする指導の工夫

- ・インタビューをして必要な情報を得るために、「何のために、どのような情報を聞き出したいのか」といった目的を明確にすることができるようにする。その上で、話の展開に沿って目的に応じた質問の仕方を考えたり、相手の意図を捉えて質問したりすることができるようにする。

【書くこと】

○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導の工夫

- ・より説得力をもって自分の考えを伝えるために、調査したことを報告する文章では、調べて分かった事実を基に自分の考えをまとめて書くことができるようにする。その際、報告する目的に応じて、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめることが適切かを十分考えて書くことができるようにする。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

○同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使う指導の工夫

- ・漢字による熟語などの語句の使用が増加する高学年では、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができるようにする。

算数

- 図形…台形について理解している。【正答率 89.8% (93.1%)】一方で、図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、他の図形を構成することに課題がある。【正答率 65.3% (60.3%)】
- 数量関係…グラフを正確に読み取ることができる。【正答率 83.7% (78.6%)】一方で、二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらに関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を記述することに課題がある。【正答率 49.0% (52.1%)】

- 数と計算…示された計算の仕方を解釈し、減法の場合をもとに、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。【正答率 27.6% (31.1%)】
- 量と測定…示された場面の状況から、単位量当たりの大きさをもとに、所要時間の求め方と答えを記述し、その結果から判断することに課題がある。【正答率 65.3% (62.6%)】
- 指導の改善に向けて（国立教育政策研究所HPより抜粋）

【数と計算】

○計算に関して成り立つ性質を見だし、表現すること

- ・適用する数の範囲を広げていながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現できるようにする。

【量と測定】

○場面の状況に応じて、数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断すること

- ・場面の状況を解釈し、数量の関係に着目して筋道を立てて考え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断できるようにする。

【図形】

○図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成すること

- ・図形の性質や構成要素に着目し、観察や構成などの活動を通して図形についての実感的な理解を深めることができるようにする。

【数量関係】

○資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりすること

- ・グラフから資料の特徴や傾向を読み取るとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断できない事柄についても判断できるようにする。

国語・算数に興味関心をもって取り組んでいるか

- 国語と算数に関する児童の興味関心（～の勉強が好き、～の勉強は大切だと思う、～の授業の内容はよく分かる、～の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つ）は高い。
- 「算数の勉強が好きですか」との質問に肯定的に回答した児童は全国平均を少し下回っている。
- 「学習したことを生活の中で活用できないか考えている」と答えた児童が非常に多い。
- 「国語の勉強/算数の勉強が好き」だと回答した児童の方が平均正答率が高い傾向が見られた。
- 興味関心の高さと正答率に顕著な相関があることから、子どもが興味関心のもてる授業づくりの一層の工夫が必要である。一方で、子どもが学習内容を活用することに意欲的であることは、実生活とつなげた単元づくりや、教科横断的なカリキュラムマネジメントの成果と言える。

主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善ができていますか ※資料④

- 総合的な学習の時間や学級活動等で、自ら課題を立て主体的に解決に取り組んでいる児童

の割合は、全国平均に比べて高い。

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」との質問に肯定的に回答した児童の割合は77%、否定的に回答した児童の割合は23%で、全国平均をわずかに下回っている。
- 子どもたちの思いや願いに沿った単元・授業づくりの研究の成果が見られる。一方で、教科等でも「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」授業づくりをしていくことが必要である。

児童生徒の自己肯定感、挑戦心、達成感等に関する状況

- 「自分にはよいところがあると思うか」(自己肯定感)、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているか」(挑戦心)、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」(達成感)との質問に肯定的に回答した児童の割合は、いずれも84%以上で、全国平均を上回っている。
- 一人ひとりが自分のよさを感じられる学級経営、一人ひとりのよさが発揮され、喜びや充実感の感じられる授業づくり、全職員で子どもを見て肯定的な声掛けをする学校風土のよさが表れている。

その他

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的に回答している児童の割合は、全国平均より少し高い。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」との質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- 授業でICTを使用する頻度が全国平均に比べて少ない。
- 読書が好きな児童が多い。(82%、全国75%)
- 毎日朝食をとり、規則正しい生活をしている児童が非常に多い。(朝食99%)
- 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」との質問に肯定的に回答した児童が86%もおり、全国・神奈川平均より約10パーセントも高い。
- 「自分の生活に返す」「実社会に参画する」学びづくり、読み聞かせ等の読書環境の充実、食育の充実といった取組みの成果が見られる。ICTを子どもたちが必要に応じて使いこなすことができているかを見取り、適切にカリキュラムに位置づけていくことが必要である。外国の方に地域を知ってもらうことに意欲をもっている児童が多い要因の一つは、地域のよさを実感していることにあると考えられる。二つ目に、外国の方との交流が少ないことも考えられるため、来年度以降の単元づくりの参考としたい。